

各関係機関の長様
病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

令和3年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

令和3年(2021年)8月31日
滋賀県

1. 病害虫名：ネギえそ条斑病、トルコギキョウえそ輪紋病
2. 病原名：アイリス黄斑ウイルス *Iris yellow spot virus* (IYSV)
3. 作物名：ネギ、トルコギキョウ
4. 発生経過
 - (1) 令和3年7月に県内の露地栽培のネギにおいて、葉に紡錘形で白色～淡黄色の条斑を示す株が認められた。滋賀県病害虫防除所においてRIPA法(イムノクロマト)およびRT-PCR法による検定を行った結果、IYSVによるネギえそ条斑病であることが確認された。
 - (2) 令和3年7月に県内の施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉に褐色の輪紋症状を示す株が認められた。滋賀県病害虫防除所においてRIPA法による検定を行った結果、IYSVによるトルコギキョウえそ輪紋病であることが確認された。
 - (3) 本ウイルスによる病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで国内で初めて確認された後、トルコギキョウ、ネギ、タマネギ、ニラ、テッポウユリ等全国30以上の都府県で発生が確認されている。近隣では、三重県のトルコギキョウ、和歌山県のトルコギキョウ、京都府のネギ、トルコギキョウ、兵庫県のネギ、タマネギ、トルコギキョウ、テッポウユリでの発生が過去に報告されている。本県での本ウイルスによる病害の発生確認は初めてである。
5. 本病の特徴
 - 1) 病徴
 - ①ネギ：葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後、紡錘形で白色～淡黄色のえそ条斑を生じる(写真1、2)。隣接した病斑は癒合し(写真3)、葉が萎凋枯死することがある。
 - ②トルコギキョウ：株の中位～上位葉にえそ斑点やえそ輪紋、茎のえそ条斑を生じる(写真4、5)。発病程度が激しくなると、葉が変形、枯死する。
 - 2) 伝染経路
本ウイルスはネギアザミウマによって媒介される(写真6)。ネギアザミウマは幼虫時に感染植物を吸汁して本ウイルスを獲得し、一度ウイルスを獲得したアザミウマは終生ウイルスを伝搬する(永続伝搬)。経卵伝染はしない。なお、その他のアザミウマによる媒介は確

認められておらず、土壌伝染や種子伝染もしない。管理作業による汁液（接触）伝染の可能性も低いとされている。

3) 宿主植物

現在までにユリ科を中心に 17 科 40 種以上の植物で感染が報告されている。主なものを表に示す。

6. 防除対策

- 1) 媒介虫であるネギアザミウマを防除する。なお、薬剤で防除する際は、薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループ薬剤の連用を避ける。また、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。
- 2) 施設栽培では、施設開口部を防虫ネットで被覆する。特に、ネギアザミウマが認識できない赤色ネットの侵入抑制効果が高い。
- 3) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、適切に処分する。
- 4) ほ場内外の雑草や収穫残渣は、ウイルスの感染源やアザミウマの増殖源となるため、除草や残渣の持ち出しを徹底する。



写真1 ほ場におけるネギのえそ条斑症状



写真2 ネギ葉身のえそ条斑



写真3 癒合したえそ条斑



写真4 トルコギキョウのえそ輪紋症状



写真5 発病程度が激しく変形した葉



写真6 ネギアザミウマ幼虫（左）と成虫（右）

表 IYSVによる感染が確認されている主な植物

科名	植物名
ユリ科	ネギ・タマネギ・ニラ・ニンニク・ラッキョウ・テッポウユリ
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	スイセン・アマリリス
アヤメ科	ダッチアイリス
アブラナ科	ダイコン・ハクサイ・ブロッコリー・ミズナ・イヌガラシ・スカシタゴボウ・タネツケバナ・ナズナ
セリ科	ニンジン
カタバミ科	カタバミ
キク科	チチコグサモドキ・ノボロギク
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ・トキワハゼ
シソ科	ホトケノザ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スミレ科	パンジー
ナデシコ科	コハコベ・オランダミミナグサ・ノミノフスマ

静岡県（2013：植物防疫第67巻第12号）等による

滋賀県病害虫防除所
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>
 滋賀県近江八幡市安土町大中516
 TEL:0748-46-4926・6160
 FAX:0748-46-5559
 Email:GC70@pref.shiga.lg.jp